



ILSI Japan CHP Newsletter

イルシージャパン シーエイチピー ニュースレター

December 2012 Number 16

ベトナムSWAN 2 プロジェクト評価活動を実施



Project SWAN 2「ベトナムの地方行政機関の能力向上を通じた安全な水の供給と栄養改善プロジェクト」ではプロジェクト最終年度を迎え、啓発活動、水処理技術改善活動ともに活動の評価を行い、プロジェクト終了後の持続発展性が保たれるよう支援してきました。

啓発活動においては、住民を対象とした水と衛生、栄養に関する行動変容調査(写真右) 水管理組合や村の保健所を対象としたフォーカスグループディスカッション、医療センターや給水センターからなるサポートチームへのインタビューを



行いました。住民を対象とした水と衛生、栄養に関する行動変容の調査結果からは、プロジェクト開始時の調査結果と比較し、**石鹸を使った手洗いの普及**や**適切な食品衛生の実施**などの改善がみられました。また、水管理組合や保健所を対象としたフォーカスグループディスカッションでは、プロジェクトの一環として行われた水処理技術のトレーニングによって、プロジェクト実施前と比較して適切な水処理施設の運転や消毒剤の投与を行えるようになった、

住民への啓発活動により、住民が安全な水や食品衛生への関心を深めるようになったとの声が挙げられました。さらに、サポートチームへのインタビューではプロジェクト実施により、**水分野と保健分野の行政機関間の連携**が強化されたという意見が挙げられました。

他方、水処理施設の技術改善活動(写真左)では、全16箇所の施設を視察し、**適切な水処理施設の運転**、**運転マニュアルの整備**、**運転記録管理**の周知徹底を図りました。また、プロジェクト前後における**水処理施設の水質**、**供給水量**、**受給世帯数**、**漏水率**の推移に関するデータの取りまとめを行い、プロジェクトの定量的成果を明確に示すことができるよう努めてきました。この結果、サポートチームや水管理組合は水処理施設の運転能



Project SWAN

Safe Water and Nutrition

安全な水の供給と栄養・保健環境の改善

WHOの報告によると、安全な飲料水の供給を受けられない人の数は、全世界で**11億人**に上るといいます。多くの途上国において、**不衛生な水**の摂取や保健衛生環境の不備は、特に**子供が下痢や感染症**を繰り返す要因になっています。このような状況は、食事の適切な摂取を妨げ、**栄養不良**の問題にもつながります。また、水処理設備はあっても、汚染物質を取り除くための適切な設備がなく、薬品の注入も管理されていないため、処理後の水でさえもWHOの基準を上回る**微生物・化学物質**が検出される例が多いのです。

Project SWANでは、安全な水を確保するために、住民が**水・栄養・保健衛生**に関する知識を得、家庭レベルで実践する。水処理施設の運転を最適化し、安全な水を供給する。という双方の視点から活動を進めます。更に、**持続的な活動**のための仕組みづくりから評価に至るまでを住民の参加を得て実施し、コミュニティベースで、継続的、かつ安全な水供給システムのモデル作りを行います。

力の向上や更なる改善点を自ら見出すことができるようになりました。

こうした評価活動の結果を現地のプロジェクト実施者と共有し、プロジェクト終了後も現地の行政機関や水管理組合によって安全な水の供給と住民への啓発活動が継続されるよう力を入れています。

2005年より JICA 草の根技術協力事業の枠組みで開始されたプロジェクト SWAN は、2013年をもって終了します。現在は、他地域への応用を可能にするためのプロジェクトガイドラインの策定や、プロジェクトを通して得た経験や知見を関連機関と共有するためのワークショップの準備を進めています。このような取り組みが、水と衛生に関するコミュニティ支援のモデル構築に資するものと期待されます。

これまでの Project SWAN

公共水道水の供給が今後も見込まれていないベトナム北部の農村地域に着目し、2001年からベトナム国立栄養研究所(NIN)と共同で、水処理施設の状況及び飲料水の水質調査を実施、更にフォーカスグループディスカッションを通して、安全な水の供給及び家庭レベルでの衛生管理の必要性が明らかになりました。これらの事前調査を基に、「住民参加による安全な水の供給と栄養・保健環境の改善事業」を JICA 草の根技術協力事業(草の根パートナー型)に提案し、3年間にわたりプロジェクトを実施するための基金を得ました。2005年11月から、ベトナム北部にある3ヶ所の村(タンヒエップ(ハノイ)・ダイモ(ハノイ)・クワンチュン(ナンディン))をモデル地域として、約2500世帯を対象に活動を開始しました。村では、水質検査や水処理施設の運転を担当する技術グループと、栄養・保健衛生に関する情報提供活動を担当する IEC グループ(Information Education Communication)が相互に協力し活動を進めてきました。2008年11月には、大きな成果を得てプロジェクトが成功裏に完了しました。2010年4月から開始したフェーズ2では、中央政府レベルにワーキングチーム、地方政府レベルにサポートチームを設置し、分野横断的な連携を強化し、コミュニティでの活動実践・維持能力の向上を図ります。

<高齢者のための介護予防プログラム>

いしのまきテイクテンが始まりました！

東日本大震災から1年半以上が過ぎましたが、被災地には、まだまだ多くの問題が残っています。高齢者の孤立や運動不足、コミュニティの再生なども重要な課題です。ILSI Japan CHP では、これらの問題が少しでも解決できるように、テイクテン!®を活用した活動を始めました。仮設住宅に住む希望者を対象に、これまでいくつかの地方で行ってきたリーダー講習会を開催し、リーダーを育成、CHP のスタッフと共に、**仮設住宅に住む人々の孤立や運動不足の解消、健康のために継続的な活動を続けていく**予定です。



石巻市立北上中学校の畠山校長先生の協力をいただき、2012年6月、北上中学校で説明会を行い、8月から講習会を開催し、10月から石巻市北上地区のにっこり仮設団地集会所で「にっこりテイクテン」としてスタートしました。

尚、このプログラムは、「2012年スミセイコミュニティスポーツ推進助成プログラム」として、公益法人住友生命健康財団からご支援をいただいています。

ベトナム版テイクテン!® ~ Next Step ~

ベトナム版テイクテン!®開発の参考にするため、2012年9月、ベトナム国立栄養研究所、Vietnam Public Health Association(VPHA)の研究者3名が視察のために訪日しました。昨年末のハノイにおける会議で、ベ



トナム版テイクテン!®の開発を進めることが決定されており、ベトナム側が ILSI Japan CHP が実施している、TAKE10!®プログラムの活動現場の視察を希望し、墨田区での介護予防教室「すみだテイクテン」等の見学が実現しました。

すでに現地ではテイクテン!®冊子のベトナム語への翻訳が進んでおり、11月から Thai Binh 省 Tien Hai で、Vietnam TAKE10!® Training course が始まります。12月に ILSI Japan CHP の木村がハノイを訪れ、進捗状況を確認する予定です。

大手スーパー秋のキャンペーンでテイクテン!®の活用

大手スーパーチェーン（イオングループ）と味の素株式会社の秋の合同キャンペーンで、テイクテン!®プログラムが活用され、好評を博しました。味の素製品を利用したレシピ（写真下）には、『テイクテン!®の10の食品群』の点数が載っており、TAKE10!®について説明したチラシ（同）も同時に配布されました。特に9月の三連休に開催された「G.G フェスタ」期間中、全国15店の大きなショッピングモール等でのイベント「あじみ総選挙」(スタッフリ企画)では、レシピにある料理の試食コーナーも設けられたため、効果的に集客でき、高齢者に限らず、ファミリー層など多くの一般の方々にテイクテン!®プログラムを紹介する良い機会となりました。2013年春にも、同企画が実施される予定です。



これまでの TAKE10!®

TAKE10!®は、秋田県南外村(現・大仙市)の高齢者 1418 名を対象として行われ、このプログラムを導入することにより、**運動習慣および食習慣の改善、筋力の維持、栄養状況の改善**が認められました。この結果は、日本公衆衛生学会で発表され、多くの注目を浴び、**毎日・読売・日経3紙をはじめ、地方紙など8紙**にその内容が掲載されました。これまでに、TAKE10!®に関するお申込みお問合せは 9000 件（そのうち自治体や介護関連団体からは 200 件超）、冊子は 2 万 5 千部を発行しております。また、各地から多くの講演依頼をいただきました。

2005 年 10 月からは、東京都墨田区で「すみだテイクテン」がスタートし、7 年間で 900 名以上の方々が参加しました。毎年、人間総合科学大学の熊谷修先生の全体講演会を皮切りに、5 地区 5 回ずつ計 25 回の講習会を開催しています。「すみだテイクテン」の介入効果は、2006 年の日本公衆衛生学会で発表しました。2007 年度からは、講習会の修了者を対象に、6 地区で月 1 回のフォローアップ教室も開催しています。

また、自治体等の指導者や介護予防活動リーダーが TAKE10!®を用いて介護予防教室をスムーズに開催できるように、指導者用マニュアル、体操指導用 DVD、資料、表示サンプル、ポスター、冊子からなる**指導者用マニュアルパッケージ**を作成しました。

Project PAN

Physical Activity and Nutrition

身体活動と栄養

Project PAN では、健康な高齢期を迎えるため、働きざかりの人々の**肥満**を始めとする**生活習慣病を予防**し、また**高齢者の寝たきりを防止**するための、科学的根拠に基づいた運動と栄養を組み合わせたプログラムを開発しています。

現在は、TAKE10!®と LiSM 10!®の2つのプログラムを進めています。

TAKE 10!® (テイクテン!®)

“TAKE10!®”は高齢者の方々の“元気で長生き”を支援し、**介護予防および老人医療費の削減**を目的としたプログラムです。“TAKE10!®”の大きな特徴は、これまでの中高年向けの生活習慣病予防プログラムとは異なり、**高齢者を要介護にしないための運動と栄養を組み合わせたプログラム**であることです。

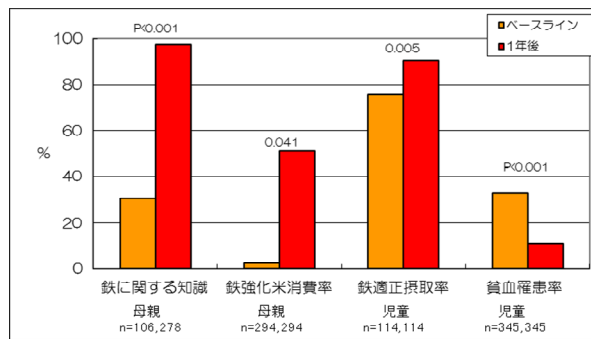
LiSM10!® (リズムテン!®)

“LiSM10!®”(Life Style Modification)は生活習慣病のリスクを改善するための職域保健支援プログラムです。このプログラムは、**健康診断後の運動と栄養の両面からの保健指導**に焦点をあてており、次の3つの柱で構成されます。生活習慣病予防のための**目標を自ら決定し、それを実施・記録する**、その継続を支援するための6ヶ月間におよぶ**定期的な個別カウンセリング**を行う、**職場や家庭において対象者を支援するためのツール**を提供する。

フィリピン ミンダナオ島での啓発活動始まる

ザンバレス州での大規模なマーケットトライアルが終了し、その報告書が、パートナーの FNRI (フィリピン国立食品栄養研究所) から発行されました。それによると、開発された強化米は、消費者に好意的に受け入れられ、児童の貧血も顕著に改善されたことが報告されました(グラフ参照)。

これに引き続き、FNRI が、この事業に参加することになる**精米業者に対する啓発活動**(写真右)を全国展開の開始場所となるミンダナオ島で行っています。



Project IDEA

Iron Deficiency Elimination Action

鉄欠乏性貧血症の撲滅運動

多様な食物の摂取が困難な途上国では、気づかぬうちにビタミン、ミネラル類(微量栄養素)の摂取不足が起こります。鉄分は、健康に生活するために必要不可欠な栄養素ですが、欠乏すると特に子供の発育や知能の発達を妨げ、母子の健康にも深刻な悪影響を及ぼし、死亡率増加の原因ともなります。更に、この欠乏症は、成人後も労働力の低下や人材の育成を妨げるなど、社会全体の生産性の低下を招き、貧困を助長させます。UN ACC/SCN の報告によれば、鉄欠乏から引き起こされる貧血症は、特に対策が遅れており、今なお 35 億人以上の心身の健全な発達を妨げています。

Project IDEA では、それぞれの地域の食生活パターンに合わせて、市販されている主食や調味料に有効な鉄分を添加し、**毎日の食事を通して欠乏栄養素を補給**することにより、鉄欠乏性貧血症を予防する活動を続けています。

ベトナム 鉄強化米のマーケットトライアル実施へ

ベトナムで鉄強化米の臨床試験に関する報告書が完成しました。その結果、鉄欠乏症が顕著に改善されることが実証されました。これに引き続き、マーケットトライアルの実施を、NIN(ベトナム国立栄養研究所)と GAIN(Global Alliance for Improved Nutrition, スイス)の共同研究として開始することが決定されました。今回は鉄分に加え、先に実施された国民栄養調査で欠乏が判明した微量栄養である**亜鉛**も添加した、2重の強化米を市場で試験することになります。

2013年7月から9ヶ月間の計画でマーケットトライアルが実施され、その評価が行われる予定です。

これまでの Project IDEA

フィリピン国立食品栄養研究所(Food and Nutrition Research Institute(FNRI))と共同で、**主食である米に着目し鉄分を強化する研究を進めてきました。硫酸第一鉄あるいは微細ピロリン酸第二鉄(SunActive)をイクストルーダ法(米粉に鉄分を混ぜ、米の形に成型する方法)により製造した鉄強化米において、貧血改善効果があることが実証されました。この鉄強化米を1年間パタアン州オリオン行政区でテスト導入し評価したところ、啓発・教育プログラムにより、消費者の鉄強化米の理解度・普及度が向上し、貧血症の罹患率の改善が認められました。**

カンボジアの NGO RACHA(Reproductive and Child Health Alliance)と共同で、**魚醤・醤油の鉄強化の導入・普及を進めています。カンポット市およびシェムリアップ市で導入され、普及活動を行いました。その結果、鉄強化魚醤・醤油を日常的に摂取することで貧血症を顕著に改善できることが証明され、更に、鉄強化製品の品質保証システムと啓発活動の効果も確認できました。鉄剤のキレート鉄(NaFeEDTA)はAkzo Nobel 株式会社から無償提供を受けています。**

ベトナムでは、ベトナム国立栄養研究所(National Institute of Nutrition(NIN))の主導により、貧血予防のための鉄(NaFeEDTA)強化魚醤プログラムを**国策として進めています。現在、約10工場にて鉄強化魚醤を製造・販売しています。さらに、フィリピンで確立された鉄強化米の技術を活かし、ベトナムでも鉄強化米による貧血改善効果に関する介入研究を実施し、有効性を実証しました。**

中国では、ILSI Focal Point in China、中国疾病予防センター(CDC China)が、2004年春から**鉄(NaFeEDTA)強化醤油プログラム**を国策として進めています。